

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

- Q1. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 解説：「咲き」は四段「咲く」連用形。直後「けり」は連用形接続の過去。「に+けり」は完了「ぬ」連用形+過去「けり」の定型。「花が咲いてしまった」。
- Q2. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 解説：体言「男」+「に」+「あり」(う変)。「断定+あり」は典型構文で、「～である」の意。「男であった」。
- Q3. 答え：ナリ活用形容動詞「静かなり」連用形語尾「に」 解説：「静か」(語幹)+「に」(活用語尾)で形容動詞の連用形。下に動詞「眠る」が来る修飾。「静かに眠る」。
- Q4. 答え：格助詞「に」 解説：体言「京」+「に」+動詞「行く」。場所・方向を示す格助詞。「京に行く」。
- Q5. 答え：接続助詞「に」 解説：連体形「降る」+「に」。連体形接続の接続助詞で、原因「～ので」または逆接「～のに」の意。ここは「雨が降るので、出かけない」。
- Q6. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 解説：「来(き)」カ変連用形+「に+けり」。万葉集の有名な歌。「春が過ぎて、夏が来てしまったなあ」。
- Q7. 答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 解説：「あはれ」(語幹)+「に」(活用語尾)+「思ふ」。「しみじみと思う」。
- Q8. 答え：格助詞「に」 解説：体言「山」+「に」+動詞「入る」。場所を示す格助詞。
- Q9. 答え：ナ変動詞「往ぬ」連用形「往に」 解説：「往ぬ」(立ち去る、ナ行変格活用)の連用形「往に」+過去「けり」。「立ち去った」。「往に」で一語の動詞活用形。
- Q10. 答え：副詞「げに」の一部「に」 解説：「げに」(=本当に、なるほど)は一語の副詞。「に」を独立した助詞・助動詞と取らない。「本当にそのようでございます」。
- Q11. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 解説：体言「都」+「に」+「ありけり」。「都であった／都にいた」と訳す場合は格助詞「に」+「あり」(存在)の解釈もあるが、定型「に+あり」は断定。文脈で判断。多くは断定として処理。
- Q12. 答え：副詞「つひに」の一部「に」 解説：「つひに」(=ついに、とうとう)は一語の副詞。「とうとう雪が降ってしまった」。
- Q13. 答え：格助詞「に」 解説：体言「夕方」+「に」+動詞「着く」。時間を示す格助詞。
- Q14. 答え：接続助詞「に」 解説：連体形「咲く」+「に」。原因「～ので」または時「～と」。「花が咲くので、人が来る」。
- Q15. 答え：ナ変動詞「死ぬ」連用形「死に」 解説：「死ぬ」(ナ変)の連用形「死に」+完了「ぬ」終止形。「死んでしまった」。「死に」で一語の動詞活用形。
- Q16. 答え：ナリ活用形容動詞「あらたなり」連用形語尾「に」 解説：「あらた」(語幹)+「に」+「造る」。「新たに造る」。
- Q17. 答え：格助詞「に」 解説：体言「母」+「に」+動詞「会ふ」。相手・対象を示す格助詞。
- Q18. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 解説：「咲き」連用形+「に+たり」。完了「ぬ」連用形+存続「たり」。「花が咲いている」。
- Q19. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 解説：体言「御使ひ」+「に」+「侍り」(補助動詞)。「お使いでございます」。「に+侍り」も断定の典型。

Q20. 答え：副詞「すでに」の一部「に」 **解説：**「すでに」(=もう、とっくに)は一語の副詞。「もう夜が更けてしまった」。

【第2部】標準編 (Q21～Q50)

Q21. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「出で」下二段「出づ」連用形+「にけり」。「月が出てしまった」。

Q22. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」+「に」+「おはす」(尊敬補助動詞)。「に+おはす」も断定の典型。「(高貴な方が)男でいらっしゃった」。

Q23. 答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「あはれなり」連用形「あはれに」+丁寧の補助動詞「侍り」。「しみじみと感慨深うございます」。語幹「あはれ」+活用語尾「に」で形容動詞の連用形。

Q24. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「更くる」(下二段「更く」)+「に」。「夜が更けるのに、なお語る」(逆接)または「夜が更けてくるので、なお語る」(原因)。

Q25. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「京」+「に」+動詞「のぼる」。方向を示す格助詞。

Q26. 答え：格助詞「に」 **解説：**「秋」+「に」+「なる」。「～になる」の構文では格助詞「に」が変化の結果を示す。※「なり」が断定の「なり」ではなく動詞「なる」(成る)であることに注意。

Q27. 答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あはれ」+「に」(活用語尾)+係助詞「も」+「あり」+詠嘆「かな」。「しみじみとしているなあ」。※「に+も+あり」の形は形容動詞語尾の連用形+係助詞「も」+ラ変動詞。

Q28. 答え：ナ変動詞「死ぬ」連用形「死に」 **解説：**「死に」(ナ変連用)+「たり」(連用形接続の存続)連体形+体言「人」。「死んでいる人」。

Q29. 答え：ナリ活用形容動詞「ことさらなり」連用形語尾「に」 **解説：**「ことさら」(語幹)+「に」+「急ぐ」。「わざわざ急ぐ」。

Q30. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「道」+「に」+動詞「迷ふ」。場所・対象を示す格助詞。

Q31. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「咲く」+「に」。逆接「～のに」または「～と同時に」。「花が咲くのに、雨が降っていた」。

Q32. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「道」+断定「なり」連用形「に」+ラ変「あり」未然形「あら」+打消「ず」終止形。「私は古典の道(の専門家)ではない」。「に+あり／侍り」のパターンは断定の典型。

Q33. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「都人」+「に」+「侍り」。「都の人でございます」。

Q34. 答え：格助詞「に」 **解説：**「山」+「に」+「入る」。場所を示す格助詞。

Q35. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「降り出で」(複合動詞)連用形+「にけり」。「雪が降り始めてしまった」。

Q36. 答え：ナリ活用形容動詞「寒げなり」連用形語尾「に」 **解説：**「寒げ」(語幹)+「に」+「見ゆ」。「寒そうに見える」。「～げなり」は様子・状態を表す形容動詞語尾。

Q37. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「我」+「に」+禁止「な～そ」。「私に尋ねないでくれ」。

Q38. 答え：ナリ活用形容動詞「のどかなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「のどかなり」連用形「のどかに」+動詞「過ぐ」。「のどかに過ぐす」。語幹「のどか」+活用語尾「に」で形容動詞の連用形。

Q39. 答え：ナリ活用形容動詞「いかなり」連用形語尾「に」 **解説：**「いか」(語幹「いかなり」の語幹)+「に」(活用語尾)+「せむ」。「どうしようか」。※「いかに」は感動詞的にも使われるが、もとは形容動詞連用形。

Q40. 答え：副助詞・接続助詞の用法（強調）「に」 **解説：**同じ動詞の反復「動詞Aに動詞A・れ・ず」で「動詞しようとしてもできない」の意。「帰ろうとしても帰れない」。「に」は強調用法。 ※ 文法書によって接続助詞・副助詞の分類が分かれるが、典型的反復構文として覚える。

Q41. 答え：副詞の一部「げに」 **解説：**副詞「げに」（＝本当に、なるほど）の一部としての「に」。一語で覚える副詞表現。「本当にそう思う」。「げに」「すでに」「つひに」「いかに」など、副詞は一語まるごと覚える。

Q42. 答え：格助詞「に」 **解説：**「海」＋「に」＋動詞「漕ぎ出づ」。場所・方向を示す格助詞。

Q43. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「多き」（形容詞「多し」ク活用連体形）＋「に」。「言葉が多いのに、心は狭い」（逆接）。

Q44. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 or 格助詞「に」＋う変「侍り」（存在） **解説：**両方の解釈が可能。「御所でございます」（断定）／「御所におります」（存在）。文脈で判断。 ※ 多くの場合、所在を述べる場面なら格助詞＋う変、身分・性質を述べる場面なら断定。

Q45. 答え：ナリ活用形容動詞「あらたなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あらた」＋「に」＋「起こる」。「新たに起こる」。

Q46. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**下二段「寝（ぬ）」連用形「ぬ」＋完了「ぬ」連用形「に」＋過去「けり」終止形。「眠ってしまった」。連用形＋「に＋けり」は「～にけり」＝完了のパターン（最頻出）。

Q47. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「深き」（形容詞「深し」ク活用連体形）＋「に」。原因「～ので」。「雪が深いので、道が見えない」。

Q48. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「都」＋「に」＋係助詞「は」。「都では花が咲いてしまった」。

Q49. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「夜半」＋「に」＋動詞「おどろく」。時を示す格助詞。「夜中に目を覚ます」。

Q50. 答え：ナリ活用形容動詞「をかしげなり」連用形語尾「に」 **解説：**「をかしげ」（＝趣ある様子の、語幹）＋「に」＋「ものし給ふ」。「趣のある様子でいらっしゃる」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あはれ」＋「に」＋尊敬「おぼしめす」（＝お思いになる）。「しみじみとお思いになる」。

Q52. 答え：ナリ活用形容動詞「のどかなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「のどかなり」連用形「のどかに」＋動詞「吹く」。「風がのどかに吹く」。語幹「のどか」＋活用語尾「に」。

Q53. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋係助詞「こそ」＋「あり」＋過去「けり」已然形「けれ」（こそ結び）。「私は男であった（よ）」。「に＋こそ＋あり＋けれ」は断定の典型構文。

Q54. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「大納言」＋「に」＋係助詞「ぞ」＋「あり」＋過去「けり」連体形「ける」（ぞの結び）。「大納言であった」。

Q55. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「知る」＋「に」＋「及ばず」。「知るに及ばない／知るまでもない」。慣用表現。

Q56. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**連体形「知らぬ人」＋「に」＋係助詞「も」＋「あら（あり未然）」＋打消「ず」。「物のあわれを知らない人でもない」。 ※ 「に＋も＋あらず」も断定構文。

Q57. 答え：形容動詞「あやしげなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あやしげ」（＝怪しげな様子）＋「に」。形容動詞「あやしげなり」の連用形語尾。

Q58. 答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「あはれなり」連用形「あはれに」＋動詞「思ふ」連用形「思ひ」＋尊敬の補助動詞「給ふ」。「しみじみとお思いになる」。語幹「あはれ」＋活用語尾「に」。

- Q59. 答え：**接続助詞「に」（または格助詞「に」）**解説：**体言「名月」＋「に」＋動詞「ある」。場所・状態を示す格助詞「名月に雲がある」。※ 連体形＋「に」なら接続助詞だが、ここは体言＋「に」なので格助詞。
- Q60. 答え：**ナリ活用形容動詞「心ゆるなり」連用形語尾「に」**解説：**「心ゆる」（＝ゆるやかな、語幹）＋「に」＋「待ちぬ」。「ゆったりと待った」。※ 「心ゆる」は形容動詞語幹として独立して用いられる古語。
- Q61. 答え：**接続助詞「に」**解説：**連体形「降る」＋「に」。「雨が降るのに、なおも来る人はいない」（逆接）。
- Q62. 答え：**格助詞「に」**解説：**体言「神」＋「に」＋動詞「祈る」。対象を示す格助詞。
- Q63. 答え：**格助詞「に」**解説：**体言「露」＋「に」＋係助詞「も」＋「ぬるる」（下二段「濡る」連体形）＋体言「袖」。「露でも濡れる袖」。原因・手段を示す格助詞。
- Q64. 答え：**副助詞・接続助詞的用法「に」**解説：**打消「ず」連用形＋「に」＋「別る」。「物足りないまま別れる」の意で「ず＋に」は連用形扱い。※ 厳密には「ず」連用形＋接続助詞「に」と解釈する文法書もある。
- Q65. 答え：**接続助詞「に」**解説：**連体形「仕うまつる」＋「に」。「お供申し上げると／お供申し上げていると」。
- Q66. 答え：**ナリ活用形容動詞「あらはなり」連用形語尾「に」**解説：**「あらは」（＝明らかな、語幹）＋「に」＋尊敬「仰せらる」。「あらわにお命じになる」。
- Q67. 答え：**格助詞「に」**解説：**「庭」＋「に」＋動詞「さす」。場所を示す格助詞。「庭に月の光がさし込んでいた」。
- Q68. 答え：**ナリ活用形容動詞「静かなり」連用形語尾「に」**解説：**形容動詞「静かなり」連用形「静かに」＋動詞「思ふ」連用形「思ひ」＋丁寧の補助動詞「侍り」。「静かに思っております」。語幹「静か」＋活用語尾「に」。
- Q69. 答え：**接続助詞「に」**解説：**連体形「思ふ」＋「に」＋「たがふ」（＝異なる）。「思うのと違う」。
- Q70. 答え：**格助詞「に」**解説：**「月」＋「に」＋係助詞「ぞ」＋「宿る」（連体形が結び）。「月にこそ宿る／月に宿るのだ」。場所を示す格助詞。
- Q71. 答え：**格助詞「に」**解説：**「あけぼの」（＝明け方）＋「に」＋係助詞「こそ」（結びの省略、文意「～であろう」）。「明け方こそ（趣がある）」。「枕草子の有名な「春はあけぼの」の文体」。
- Q72. 答え：**格助詞「に」**解説：**「鳥」＋「に」＋禁止「な～そ」「慕はれ」（四段「慕ふ」未然＋受身「る」連用）。「鳥に慕われるな」。受身の対象を示す格助詞。
- Q73. 答え：**副助詞・強調用法「に」**解説：**同じ動詞の連用形反復「動詞A連用＋に＋動詞A連用・たり」で強調。「ずっと待ち続けたけれども、来ない」。
- Q74. 答え：**格助詞「に」**解説：**「名月」＋「に」＋「雲」、「花」＋「に」＋「風」。並列・対比の格助詞。「名月には雲、花には風（がつきもの）」。「徒然草の「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」の文脈に近い」。
- Q75. 答え：**ナリ活用形容動詞「をかしげなり」連用形語尾「に」**解説：**「をかしげ」＋「に」＋尊敬「おはす」。「趣のある様子でいらっしゃる」。
- Q76. 答え：**格助詞「に」**解説：**「親」＋「に」＋形容動詞「孝なる」連体形＋体言「人」。「親に孝行な人」。対象を示す格助詞。
- Q77. 答え：**格助詞「に」**解説：**「行く春」＋「に」＋「惜しまるる」（四段「惜しむ」未然＋受身「る」連体）＋「人」。「過ぎ行く春に惜しまれる人」。受身の動作主を示す格助詞。
- Q78. 答え：**格助詞「に」（対象）**解説：**体言「神」＋格助詞「に」（動作の対象）＋動詞「祈る」。「神に祈る」。体言＋に＋動詞のパターンで、対象・場所・時間を示す格助詞。
- Q79. 答え：**格助詞「に」**解説：**「嵐」＋「に」＋動詞「散る」＋体言「花」。原因・手段を示す格助詞。「嵐によって散る花」。
- Q80. 答え：**副助詞・強調用法「に」**解説：**同じ動詞の反復「言ふに言は・れ・ず」で「言おうとしても言えない／言うに言われない」。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：傍線部の「に」の解釈 **解説：**「求めにとて」の「に」は格助詞「に」＋引用「とて」。「求めて」の意の動作の目的を示す格助詞。伊勢物語第九段の冒頭。「(住むのに適した) 国を求めようとして行った」。 **正答：**格助詞「に」

Q82. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「何」＋「に」＋係助詞「か」(疑問)。連体形の結びとして「あらむ」「ある」などが省略されている。「あれは何であろうか」。「に+か(+あらむ)」の断定構文。

Q83. 答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「失せ」下二段「失す」連用形＋「に」(完了「ぬ」連用形)＋「し」(過去「き」連体形)＋「かば」(已然形+ばの音便、原因)。土佐日記の有名な一節。「(国で) 急に亡くなってしまったので」。

Q84. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「もの」＋「に」＋係助詞「こそ」＋結び省略(～あれ)。「(～詠じた) ものである(よ)」。

Q85. 答え：傍線部「物語などしてあつまり候ふに」の「に」 **解説：**連体形「候ふ」＋「に」。接続助詞で「～していたところ」の意。枕草子「香炉峰の雪」段。「物語などをして集まり申し上げていたところ」。 **正答：**接続助詞「に」

Q86. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「給ふ」＋「に」。「中納言が参上なさって、御扇を差し上げなさるときに」。枕草子の有名な一節。

Q87. 答え：格助詞「に」(時を示す) **解説：**体言「あけぼの」＋格助詞「に」。「明け方に起き出して、東の空を眺める」。時を示す格助詞。

Q88. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「上」(=帝、宮中の方)＋「に」＋動詞「心も乱る」。対象を示す格助詞。「帝(の御様子)に心も乱れて」。

Q89. 答え：格助詞「に」(または接続助詞的用法) **解説：**「ものごと」＋「に」＋形容動詞「あはれなり」已然形「あはれなれ」(こそ結び)。「ものごとにしみじみとした趣がある」。徒然草の一節。※「ものごと」の「に」は副詞句を作る格助詞。

Q90. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋副助詞「し」(強調)＋「あれ」(う変已然形)＋「ば」(原因)。「私は男であるので」。「に+し+あれば」も断定の典型。

Q91. 答え：格助詞「に」(または副詞的用法) **解説：**「よろづ」(=万事)＋「に」＋形容詞「いみじ」(=甚だしい)。「万事においてはなはだしい／何もかもひどい」。

Q92. 答え：副詞「さすがに」の一部「に」 **解説：**「さすがに」は一語の副詞(=やはり、なんといっても)。徒然草第十一節。「やはり住む人がいるからなのでだろう」。

Q93. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「かすめる」(四段「かすむ」已然形「かすめ」＋完了「り」連体形「る」)＋「に」。「明け方の空がほのぼのと霞んでいるところに、人の声がする」。

Q94. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「世の中」＋「に」。「この世の中に」と場所・範囲を示す格助詞。伊勢物語第八十二段(渚の院)の在原業平の歌。「世の中に全く桜がなかったなら、春の人の心はのどかだっただろうに」。

Q95. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「心」＋「に」＋動詞「かかる」。場所・対象を示す格助詞。「心にかかるけれども、口に出さない」。

Q96. 答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「降りたる」(四段連用＋完了「たり」連体)＋「に」。「雪が高く降り積もっているところに／積もっているうちに」。

Q97. 答え：格助詞「に」 **解説：**体言「けはひ」＋「に」＋動詞「目覚む」。原因・契機を示す格助詞。「眠いときも、人の気配によって、ふっと目覚めるものだ」。

Q98. 答え：比況の助動詞「ごとし」連用形「ごとく」＋格助詞「に」 **解説：**「ごとくに」は比況の助動詞「ごとし」連用形「ごとく」＋格助詞「に」。全体で「夢のように」と副詞のように働く。

Q99. 答え：格助詞「に」 **解説：**「人ごと」(=人それぞれ) + 「に」 + 「いふ」。「人それぞれが言う／人ごとに言う」。徒然草の一節。

Q100. 答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「もとの水」 + 「に」 + 「あら」(う変未然) + 「ず」(打消)。方丈記冒頭の有名な一節。「もとの水ではない」。「に+あらず」は断定の打消。